最優秀賞に「小規模多機能型居宅介護施設 さんぽみち」

令和4年（2022年度）建築作品賞は、最優秀賞に「小規模多機能型居宅介護施設さんぽみち」（設計＝倉橋建築計画事務所）を、優秀賞に「駒ケ根市地域交流センター赤穂公民館・児童発達支援施設つくし園」（設計＝エーシーエ設計）を決めた。5月13日に開催した選考委員会（委員長・土本俊和信州大学工学部教授）で審査し、決めたもの。最優秀賞に選ばれた作品は日事連建築賞の選考対象となる。受賞作品は6月22日の日本建築士事務所協会連合会の総会で発表され、9月30日開催予定の第44回建築士事務所全国大会（熊本大会）で表彰される。

同賞は、すぐれた建築作品を設計した建築士事務所の表彰を通して建築士事務所の資質向上に資する目的で毎年開催されている（下諏訪町）もので、今回で24回目。今回は平成31年から令和3年（2019年）4月から（2021年）3月末までの間に竣工した建物を対象に、今年1月から3月25日まで募集し、7点の応募があった。

受賞作品は次の通り。

【最優秀賞】

◇小規模多機能型居宅介護施設さんぽみち／松本市＝倉橋建築計画事務所（松本市）

【優秀賞】

◇駒ケ根市地域交流センター赤穂公民館・児童発達支援施設つくし園／駒ケ根市＝エーシーエ設計（長野市）

【奨励賞（※佳作と同等の賞）】

◇林歯科クリニック／茅野市＝一級建築士事務所ゼロデザイン工房（下諏訪町）

【佳作（4作品 ※奨励賞と同等の賞）】

◇松葉の家／上田市＝創風設計室（上田市）

◇あかしな野中眼科／安曇野市＝HAL設計室（松本市）

◇KURABITO STAY／佐久市＝甘利享一建築設計舎（小諸市）

◇イルフ西堀保育園／岡谷市＝サイト（岡谷市）

最優秀賞：小規模多機能型居宅介護施設　さんぽみち

奨励賞：林歯科クリニック

優秀賞：駒ケ根市地域交流センター赤穂公民館
児童発達支援施設つくし園

佳作：あかしな野中眼科

佳作：松葉の家

佳作：イルフ西堀保育園

佳作：KURABITO STAY
古民家をリノベーションした酒蔵ホテル

総評

土本 俊和（信州大学工学部教授）

今年2月に勃発した戦争が続く中、各国は人々を受け入れる努力をしています。日本に来られた方から、ツツジの花を見て本当に美しいと思うという声や、自動で開閉するトイレを使って見て別の惑星に来たみたいだという声が伝えられています。

今も破壊されつつある戦場にも、美しい花があっただろうし、利便性の高い建築もあったでしょうが、いま大切なのは人々の命ですから、人々を受け入れる用意がさまざまな国にあったということは本当に良いことであると思います。

今回提出いただいた作品は、信州に新たにたった建物です。地域の人々に愛されることを念頭に、信州の個性を生かしつつ、人々を招き入れることが建築に配慮されていました。

かつて、モダニズムが地方に展開したころのような、建物が大き過ぎてしまうところがなく、造形的に力んだところがなく、無意味に奇抜なところがなく、材質に人間味がないところもなく、そもそも建築家の我執がまったく見られない、というような意味で、今に生きる人々が共に在るということに基づく倫理が、建築の内部と外部、すなわち建築の全貌と通じて探究されていました。

当たり前だと感じ入っていた倫理が蝕まれ、当たり前だと思っていた環境が壊されている戦場を見ると、公共性、日常生、安全性を体現する建築に深く根ざしている倫理の大切さと、その倫理によって導かれた環境のかけがえのなさが身に迫ってきます。

高齢者、子供たち、患者さん、旅人、そして一人一人のことを想（おも）いつつ、細やかな設計に取り組まれ、そして、建築として完成に至った作品を見つつ、このようないとなみ自体が当たり前ではなくなる場合が起こるかもしれないと世界の人々が感じ始めても仕方がない状況が悲しいことに続いています。

器としての建築は、人々を受け入れる器であり、それはただ単に受動的に人々を受け入れる器ではなく、積極的に動的に前向きに人々を受け入れる器であることができる、といえるでしょう。

設計に取り組まれた建築士の方々は、どれほど多くの人々の存在を想（おも）い浮かべられたことでしょうか。建築が美しいとすれば、それは、建築に受け入れられた人々の心の姿を表しているのでしょう。

【講評】

最優秀賞：小規模多機能型居宅介護施設 さんぽみち

背後に山々が控える田畑の中で低層の古い建物が点在している環境の中にたつ「さんぽみち」は、本棟造という伝統的な民家の姿を採用することで地域の象徴性を手にしつつ、歴史的な環境に溶け込んだ存在になっている。介護施設といえば、手厚い介護のために閉鎖的になってしまいがちだが、子供を含めた世代間交流を目指すことでこの難点が克服されている。「さんぽみち」は、コミュニティースペースである「よりみち」という居室が併設されている他、敷地の東側を南北に伸びる赤線を「緑の小径」と位置づけた上で、そこから「庭の小径」を敷地の中へ導いて、「芝生の庭」「花壇」「菜園」へと気軽にアプローチできるようになっている。木で温もりと柔らかさを醸し出した建築内部から、水平に向かう視線により周囲の事物の全体が自然と捉えられる。外部を、内部からの無理のない視線で和むことができるという意味で、高齢者に優しい開放性が体現されている。

（講評：信州大学工学部教授　土本俊和）

優秀賞：駒ケ根市地域交流センター赤穂公民館　児童発達支援施設つくし園

天竜川の右岸にある駒ヶ根市の中で都市施設が集まっている。ここには、すずらん公園のほか、駒ケ根文化センターがあり、その北側に「つくし園」が新たにできた。この建築は、地域交流センターである赤穂公民館と児童発達支援施設とが併設されたものである。隣接する駒ケ根文化センターにはすでに大規模なホールがあることを受けて、ここには300席弱の小規模なホールが設置された。舞台裏の動線を確保した本格的な舞台機構と綿密な音響設計により、地域の方々が自信を持って取り組むことのできる場が創出された。内部では、地域産材を用いることで、ホールの吸音性の他、子供たちに優しい温もりが体現されている。表通りである上穂大通りからは調和のある公共施設が並ぶ。すずらん公園から入っていくと、中庭のある駒ヶ根文化センターを右にみて「つくし園」に至る。市街地の中のゆとりのある外部環境の中で奥行感のある空間が子供たちに与えられた。

（講評：信州大学工学部教授　土本俊和）

奨励賞：林歯科クリニック

設計意図「歯科医院ぼくない歯医者さん」の通り一瞬カフェと見間違う外観は成功したと思います。デンタルフォレストをコンセプトにし、建物内外に緑を取り入れ、歯科医院へ通う抵抗感を薄まらせ、子どもたちも楽しみに来ることができる空間になったと思います。待合室スペースが広く、高い天井、大きなガラス窓とし、内外の一体感が感じられ診察を待つ時間も気にならないと思います。プレゼン的に、外観写真等をもう少し増やした方が良かったと思います。

（講評：会長　土屋長命）

佳作：松葉の家

この作品は築100年を超える2階に蚕室のある古民家の改修作品である。外観は古民家の面影を残して屋根の葺替えと外壁の改修を行い、内部は構造体を残しながら耐震補強と断熱改修を行いながら現代の生活に合った改修を行っている。改修された吹き抜けや光庭などを通して、寒く暗いという田舎の古民家のイメージは払拭され、温かく明るい空間が作り出されている。未だ改修されていない部屋の今後の改修が楽しみの作品である。

（講評：副会長　竹原基好）

佳作：あかしな野中眼科

この施設は拡張整備される国道と市道に面した複雑な形状の敷地に建設された眼科医である。外観はカーテンウォールと木製ルーバーおよびタイルの組み合わせで構成されており、新しく作られる街並みの先駆けとなるような新しさを感じさせるデザインで好感が持てる。平面計画は敷地形状から2階に診療室が配置されている。1階のエントランスから2階へのアプローチが秀逸であり、内部空間は天井と壁に地元産の唐松を使い木に包まれた柔らかく落ち着きのある空間でよく計画された作品である。

（講評：副会長　竹原基好）

佳作：KURABITO STAY　古民家をリノベーションした酒蔵ホテル

築100余年の建物を、疑似体験に訪れた方々の滞在空間にリノベーションした酒蔵ホテル。「KURABITO STAY」の窓から望む周囲の酒蔵の風景が独特な雰囲気を伝えています。1階ラウンジには隣で働く杜氏さんの姿が自然に視野に入ってくる大きな透明ガラスの窓が設けられています。2階の客室は、大きな庭園の風景を内部空間に引き込み江戸時代にタイムスリップしたような錯覚を漂わせる仕組みにされています。

（講評：副会長　小林正直）

佳作：イルフ西堀保育園

園舎隣地の岡谷市出身の童画家武井武雄の生家・敷地が岡谷市に寄贈され、園舎敷地と合わせた敷地計画として計画された建物。地域に長く愛されてきた武井生家の長屋門を正面に移築再現して玄関前のコミュニケーション空間として計画されています。外壁は武井作品を基とした武井ワールドの「旅をテーマとした絵巻物語」をデザインし、「イルフ西堀保育園」として生まれ変わっています。

（講評：副会長　小林正直）